

移植サンゴの生息状況調査について

平成29年9月

沖縄防衛局

○ 移植したサンゴ類の生息状況等に係る調査頻度については、第5回環境監視等委員会において、事務局から、沖縄県策定の「沖縄県サンゴ移植マニュアル」等を踏まえ、「移植後1年目:直後、約1、3、6か月後、移植後2～5年目:1回/年、移植後6～10年目:隔年(1年間隔)、移植後11年目以降:少なくとも5年間隔(突発的な環境変化(大規模白化等)が確認された場合は、上記調査頻度に限らず実施することが望ましい)」として提示したところ。

※ 移植先で岩盤に固着して安定するのに約3年かかることを考慮し、おおむね5年間は少なくとも1回/年。

※ 沖縄県サンゴ移植マニュアルの例:1-2週間後、1-2か月後、半年後、1年後、2年後、3年後、5年後、10年後

○ 爾後、沖縄県との環境保全対策等に係る協議の過程において、同県から、「特に、当該工事の汚濁防止膜は一部が開放されており、通常の閉鎖された汚濁防止膜とは異なった構造となっております。このため、移植後のサンゴ類について確認頻度を下げることが望ましくない」旨の指摘や、他の行政実例を参酌した結果、本調査の調査頻度を上げることにより、移植したサンゴ類の成長度合い等について、より精確に把握することが可能となることから、当該調査頻度について、「移植後、概ね3箇月ごとを基本(突発的な環境変化(大規模白化等)等が確認された場合は、この限りでない)」とする計画。

○調査目的

・移植したサンゴ類の移植先での生息状況、成長度合いについて把握することを目的

○調査範囲

・移植したサンゴ類の移植先

○調査方法

・移植先水域における移植群生及び既生息群生について潜水目視調査